

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### ●同志社大学心理学研究科心理学専攻

##### 「研究センター連携型オープンフィールド教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・前期課程の第1年次に実施しているオムニバス形式の「心理学体系論」の授業を、インターンシップ実践のための科目に充当した。
- ・授業以外でも、研究センターを介して国内外の様々な企業や医療・教育・研究機関でインターンシップを実施した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・「心理学体系論」では、事前に研修を行う施設についての基礎知識を教え、さらに研修後の授業あるいは各学期末の研修報告会で学生が立案したプロジェクトを教員や他の学生と専門性に基づいて議論することで、各自のプロジェクトをより実現可能なものとして整理し、組み立てていくトレーニングを行った。
- ・海外でのインターンシップ活動のため、英語研修を定期的に設け、大学院生をサポートした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・インターンシップ研修により、社会の様々な場面で何が問題となっているかを体験することで大学院生の視野を広げる効果が、さらに国内外の幅広い分野での先端的な研究に触れることで、大学院生の目標を高める効果が得られた。
- ・学生に対するアンケートにおいても、自身の専門外の研究領域への興味を高めた、自身の研究の推進に役立ったという評価が高かった。

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ②産業界等、社会のニーズと大学院教育のマッチングを図るための企業等との教育連携

##### 《人社系》

##### ●同志社大学心理学研究科心理学専攻

##### 「研究センター連携型オープンフィールド教育」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

後期課程2年次に新しく設置した「プロジェクト特別演習」の授業において、大学院生自身が共同研究プロジェクトを立案、実施し、その成果を博士論文に組み込むことを義務づけた。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・大学院生が中心となって共同研究プロジェクトを企画・立案し、企業の担当者、医療機関の医者、学校の教員、国内外の他大学の研究者など学外の専門家を含むプロジェクトチームを形成し、研究を実施させた。
- ・共同研究プロジェクトの運営の中心はあくまでも大学院生であり、指導教員はプロセスの全般にわたってサポートを行った。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・実際の運営能力と様々なコミュニケーション能力（たとえば外部研究者とのディスカッション能力、プレゼンテーション能力など）を修得できた。
- ・後期課程2年次の後も共同研究プロジェクトを継続していく大学院生が出るなど、自らが社会のニーズに応える研究プロジェクトを企画・実現する能力の向上において成果が出ている。
- ・博士学位取得後の進路について、共同研究を実施した企業の研究所や医療機関などより実践的な環境での研究を目指す者が増えてきている。